



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 165

2022

6.29

つながる本棚「hito-haco」 『育ちあい・学びあい文庫』 只今準備中！



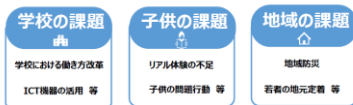
ウィズあかし8階に“つながる本棚「hito-haco」”が設置されました。明石は「本のまち明石」として、市内には個性豊かなブックスポットが数多くあります。それらブックスポットの拠点としてブックスポットの紹介だけでなく、本を通じて明石を知ることができるのも「hito-haco」です。その

「hito-haco」にコミュニティ・スクールを紹介する『育ちあい・学びあい文庫』を開設します。7月2日のオープンに向け只今準備中です。ウィズあかしに立ち寄られた際には、是非、『育ちあい・学びあい文庫』を覗いていただき、本を手にとっていただけたらと思います。

「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」に参加して

1. 必要性

学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み



コミュニティ・スクールにより、地域全体で解決に向けて取り組む

2. まとめ

コミュニティ・スクールの導入により、子供を中心にして、地域全体を一つにまとめる次世代の地域づくりを推進



6月11日に「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」が開催され、朝霧小学校の学校運営協議会さんが取組を発表されたことは「コミコミスクスク No. 163」の中で紹介させていただきました。今回のフォーラムでも文部科学省からのコミュニティ・スクールについての行政説明がありました。その中で、“学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み”としてコミュニティ・スクールがあり、子どもを中心に学校づくり・地域づくりを考えるとといったことでコミュニティ・スクールが機能することにより、地域を一つにし、地方創生に貢献し、さらには国・世界の発展の貢献につながっていくという説明がありました。これまで以上に、コミュニティ・スクールは学校支援といった見方ではなく、“地域とともにある学校づくり×学校を核とした地域づくり”

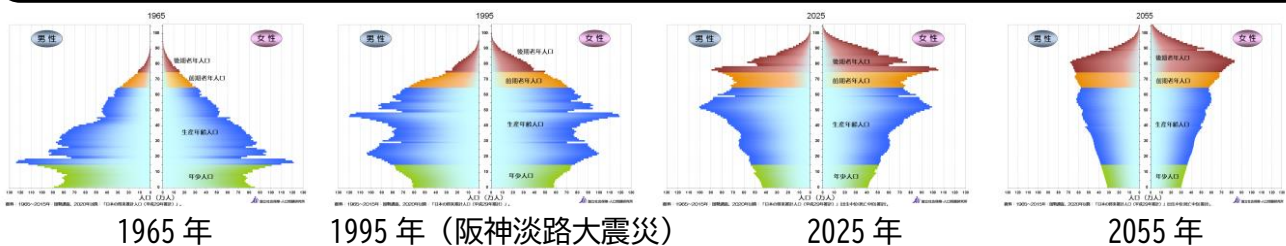
と地域・社会をつくっていくといったことが強調されたように感じました。そういった意味でも、“子どもたちが地域の課題に気づき、考え、働きかける” 学びを学校と地域と保護者でつくっていく朝霧小学校の発表は意味があったと思っています。また、このフォーラムでコミュニティ・スクールが学校の支援が目的ではなく、子どもを中心に学校づくり・地域づくりを考えることで、地域を一つにし、次世代の地域づくりにつなげていくことを目指しているといったことが再確認できたのが私にとって大きな収穫でした。また、コミュニティ・スクールにかかわり始めてから、地域学校協働活動、地域学校協働本部といった文言になぜか引っかかっていたのですが、今回の行政説明だけでなく、パネルディスカッションのモデレーターをつとめられた志々田国立教育政策研究所総括研究官にご紹介いただいた「地域学校協働のデザインとマネジメント コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい」（学文社）を読み始める



中でそれがすっきりしてきました。この本は、コミュニティ・スクールの「HOW to 本」ではなく、“なぜ、今コミュニティ・スクールが必要なのか、今日本で進んでいる教育改革が必要なのか、なぜ、地域づくりが必要なのか等”、本質から考える上でとても参考になるのではと思います。「hito-haco」の「育ちあい・学びあい文庫」には置かせていただきますので是非、手に取って読んでいただけたらと思います。

「地域学校協働のデザインとマネジメント コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい」(学文社)を読み進めながら、私自身の学びを皆様にもお伝えできたらと思っています。次号より少しずつご紹介させていただきます。

あかし男女共同参画週間 防災講演会 みんなが活きる「これからの地域防災」のすすめ



人口ピラミッド(出典:国立社会保障・人口問題研究所HPより)



6月26日にあかし男女共同参画週間防災講習会“みんなが活きる「これからの地域防災」のすすめ”がウイズあかしを本会場としオンラインでサテライト会場の西部文化会館を結んで開催されました。地域防災の企画運営に携わっておられるまちづくり協議会関係者を中

心に様々な立場から数多くの方が参加されていました。阪神淡路大震災で我々の防災意識が高まりましたが、それから27年がたち社会状況が大きく変化する中で、従来の防災意識のままで大丈夫ですかという投げかけでスタートしました。この人口ピラミッドの裏側では、様々な課題が生まれ出されています。災害対応は自助・互助(主として近隣コミュニティ)・共助(NPO/NGO等)・公助が重要と言われてきましたが、こうしたデータを根拠に少子高齢化・世帯状況等の様々な社会状況の変化で自助・互助等従来の手法が当てはまらない状況が生まれてきていると聞き、それが自分にピッタリ当てはまり、なかなか厳しい状況に自分が置かれていることを痛感させられました。また、災害関連死や人権問題等にも触れながら、地域福祉・環境保全・生涯学習・青少年育成・地域づくり等色々な視点からのアプローチの必要性など、これまで自分の中にあつた防災の視点には偏りがあつたことを認識することができました。講師の相川康子先生の話だけでなく、グループに分かれての意見交換でも様々な立場の方からご意見を聞くことができ、これまでの動く訓練だけではなく、こうした話し合いが柔軟に対応できる防災の仕組づくりに自分が当事者として参加する一歩なんだろうと、自分の中で有用感を感じさせていただきました。

今回の研修に参加して、これまでの学校の中の防災訓練から一歩踏み出し、地域と一緒に地域の防災を考えることで、子どもたちが地域や社会の現状や課題を実感し、それらの課題解決には防災の視点だけでなく、福祉・人権・環境等様々な視点を絡めながら当事者として地域や社会のことを考えられるようになるのではと感じました。本研修会には市内の小学校の管理職の先生も参加されていたので、学校の中で、また学校運営協議会でこうした地域防災等を通じて子どもたちと大人が話し合う場が話題になればいいなと思っています。きっとそれが持続可能な社会づくりにつながっていくと考えています。

(文責:北本)